



# With

おおさき男女共同参画推進ニュース

表題は一緒に歩む男女共同参画をイメージしています

## 家庭で育む人権意識

最近、暴力や虐待、殺人事件が毎日のように新聞紙上をにぎわし、特に児童虐待の報道が目につきます。

一般に弱いといわれる人を自分の意のままにしようとして、

力のあるものが、ほぼ一方的に危害（精神的なものも含む）を加える虐待（いじめ・暴力）行為が発生します。

自分の所有物のよう

な意識が働くのでしょうか。どんな小さな子どもにも人権があります。命の重みは大人と一緒に。子どもだから、妻だから、自分の所有物だから何をしてもいいという考えがあるとしたら大変です。また、大人に成長してからその考えを変えようとしても、なかなか変えられるものではありません。

子どものうちから、人権意識、平等意識、そして自分を大事にする心を養っておくことが何よりも必要ではないでしょうか。改めて教育するということではなく、家庭で今日起こったことを話し合うことが有効だとも言われています。その際は親として「こう思う、このように考える」と親の意見を示しておくと同時に子どもの意見も聞いておくことが、子どもの人格形成上、

重要であるといっています。



## リレーコラム

### 世界の平和は家庭から

10年程前にマザー・テレサの「愛の反対は憎しみではなく、無関心である。」という言葉に出会い、「！ 本当だ・・・全ては知ろうとすることから始まるんだ。恋愛も、子育ても、世界も自分も！」と思った。そして、その頃読んだフォレスト・カター著「リトル・トリー」のトリーの祖母が語る「誰でも二つの心を持っているんだよ。ひとつの心はね、からだの心（ボディー・マインド）、つまりからだがかちゃんと生き続けるようになって、働く心なの。でもね、人間はもうひとつ心を持ってんだ。それは、霊の心（スピリット・マインド）なの。（中略）

霊の心ってものはね、ちょうど筋肉みたいで、使えば使うほど大きく強くなっていくんだ。努力すればするほど理解は深くなっていくんだよ。理解というのは愛と同じものなの。」と重なった。8年前に乳がんを患った。先日「退院して一番嬉しかったことは、台所に立って家族の料理を作れたことだったんだよ。」仕事の疲れを引きずりながら作った夕飯を食べながら娘に言うと「よかったね。必要とされているんだよ。」と。娘の成長と“必要”の言葉に幸せをもらった。

「世界の平和は、まず家庭の平和から始まります。平和はほほえみから始まります。」（マザー・テレサ）

子育て支援ボランティア団体「ホップクラブ」 加藤 良子さん

## 家庭は小さな天国

### コラムニスト紹介

保育士である加藤良子さんは、子育て支援ボランティア団体「ホップクラブ」会員として、そして、放課後こども教室「あ・そ・ほ！」のコーディネーターとして日々活躍されている子育て支援のスペシャリストです。





# 家庭は心を育む

～一人の人間として大切にされる出発点～



## 命を繋ぐ

私たち人間にとって大切なのは「命を繋ぐ力」です。たとえば「食べる」「眠る」など、生きていく上で大切な習慣。私たちはそれらを欠かさず行い、そして命を繋いでいるのです。

そしてそれらは生まれた時から出来る事ではありません。

私たちは、両親や家族から、その生きる術を教わります。家庭で育む「生きる力」は、家族の「愛情」であり、「健やかに生きて欲しい」という願いでもあるのではないのでしょうか。

## 父の背中

この不景気なご時勢にあっても、子供がどんな苦難にも負けず雄々しく生き抜いて欲しいと強く願う。

でも、他力本願だけではなく、自分にできることは何だろうか。

子供達に自分の生き様を見せること。こうあって欲しいと願うことを自ら実践して見せることか。

月曜の朝、憂鬱にしている自分に反省し、「ちょっとシャンとしてみよう」と、ネクタイを締め直す。

## キホンは会話

家族といっぱい話していますか？

子どもの成長と家族の会話は比例すると思うけれど、中学・高校となると部活や習い事が増え、家族との時間は減っていくように感じます。

我が家では、家族みんながそろそろ時間を作ろうと、朝食を一緒に食べるルールを作っています。

何気ない当たり前の会話によりお互いを理解しあい、困難にぶち当たった時、「助けを求められる・助けることができる」、そんな関係を築いていけたらいいと思います。



ダイヤモンドの原石を磨くのはダイヤモンドといいますが、人間を磨くのもまた、人間です。

人が一人前に育つには、父母のみならず、家族や学校、地域社会の中で、様々な人たちと関わり合いながら、学び、鍛えられ、成長していくのですね。

## 男女共同参画NEWS



「性の健康」を考えた熱い90分！！

2月26日、古川保健福祉プラザにおいて「リプロダクティブ・ヘルス/ライツって何だろう？ 今我々がしなければならない事～婦人科視点から女性の健康を考える～」と題した男女共同参画推進学習会が開催されました。講師に産婦人科専門医としてご活躍の関井亜有美先生を迎え、大崎市役所38部署より50名の参加がありました。人権としての「性と生殖に関する健康と権利」を社会の問題として認識し、市民へ働きかける立場の我々が、それぞれの業務の中で、使命感を持って問題解決を模索しようと結ばれました。我々を取り巻く性の問題の共有と行政を担う立場で出来ることを考えた熱い90分間！ただ、男性職員の参加が少なく「男性職員にこそ聞いて欲しかった…」という女性職員の感想もありました。

求む！男性参画！

## あとかき

先日、妹が結婚しました。嫁ぎ先の家では、「男は何もしない」というのが当たり前のようで、夫の靴下さえも用意してあげなければならないとのこと。

私が結婚したら「何でも二人で協力」していこうと思っていたのですが、実際に相手の家に入ったら、義父・義母の前で夫に「お風呂沸かして」「ゴミ出して」なんて言えるかなあ・・・？